

令和7年度小平市立花小金井小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は、全国、都平均を上回っている。14問中、誤答数1～3問の層の割合が50%以上と高く、全体的に習熟の度合いが高い。問題形式では記述式の正答率が高い。全国及び都では記述式の問題では無回答率が高い傾向があるが、本校は無回答率が低い。

課題

思考力・判断力・表現力のうち、話すこと・聞くことに関する問題については、正答率の伸びが鈍かった。自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることが出来るか、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることが出来るか、が不十分である。

学校で取り組む具体的な改善策

話すこと・聞くことでは、自分の考えをまとめる際に自分の聞こうとする意図を明確にするように指導する。読むことでは、文章を精査・解釈し、根拠をもって考え、理解したことに基づき、既存の知識などと結び付けて考えを形成できるようにする。また、自分の考えの根拠が明確になるように意識的に教材文に立ち返る。そのために、読み取った登場人物の気持ちや筆者の伝えたいことを書く、友達と伝え合ったり、自分の考えと比較したりする活動を多く設定する。

【算数】

状況の分析

平均正答率は、全国、都を上回っている。16問中、誤答1～3の上位層の割合が47%と高く、正答数9問以下の下位層が少ない。知識・技能、思考・判断・表現のいずれの観点に関しても正答率が全国平均より約5ポイント高い。

課題

図形領域の「五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く」については正答率が都平均を下回っている。また、図形の性質や角の大きさを求める知識・技能を問う問題では正答率の伸びが鈍い。

学校で取り組む具体的な改善策

習熟度別指導で各領域の学習の定着の様子を把握し、図形領域の問題においても既習事項に立ち返って図形の分割や複合図形の解き方について捉えなおすようにし、必要に応じて個別の補充課題に取り組めるようにする。

自分の考えを伝えることに苦手意識をもっている様子や、問題の解き方を説明したり、他の解き方を考えたりすることに対して意欲的でない様子が見られるため、考えの伝え方のモデルを示し、苦手意識を徐々に克服できるようにする。さらに、自分に自信をもてるようになる指導を意識して行う。

【理科】**状況の分析****課題**

平均正答率は、都、全国平均を上回っている。17 問中、誤答数 2 ～ 4 問の割合が約半数と高く、上位層と中間層が近接している。正答数 9 問以下の下位層が少ない。思考・判断・表現の観点が全国平均より約 9 ポイント正答率が高い。

磁石に引きつけられるかを問う問題や、電磁石の強さ、顕微鏡の扱い方を問う問題では正答率が都、全国平均を下回った。また、それらの問題を含んだ知識・技能の正答率とは平均と比べほとんど差が見られなかった。

学校で取り組む具体的な改善策

自然の事物・現象に親しむ中で興味・関心をもち、そこから問題を見いだせるようにする。また、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を検証、考察して結論を導きだす問題解決の過程の中で、問題解決能力を育成する。その他、天気、植物、昆虫、星などを日常的に観察、記録する学習を習慣化することにより自然現象への理解を深める。

【質問紙】**状況の分析****課題**

全体的に生活習慣や学習に関して肯定的な回答をしている児童が多い。ICT 機器を使って情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりすることができる児童の割合が多い。学級をより良くするために話し合い、互いの意見を尊重する児童の割合が全国や都の実態と比べて 7 ポイント高い。

学習意欲が高く、新聞を読んだり、生活の中で自然観察をしたりする児童が多いが、「国語の勉強が得意、好き」と肯定的に答えた児童が都平均を 5 ポイント下回っている。また「読書が好き」と肯定的に答えた児童の割合も、都平均を約 3 ポイント下回っている。

学校で取り組む具体的な改善策

生活習慣が安定し、児童の学習意欲が高く、学習に関わる基盤が整っているため、さらに確かな学びが構築されるように教育活動を充実させていく。特に、国語が好きだと回答しなかった児童も、授業の内容はわかる、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している、と回答していることから、児童の期待に応え、主体的に学べる課題設定や授業展開を提供できるようにする。

また、日頃から読書ができる環境を設定し、登場人物や場面の様子について内容をイメージしながら読めるように読書カードなどを活用して指導していく。